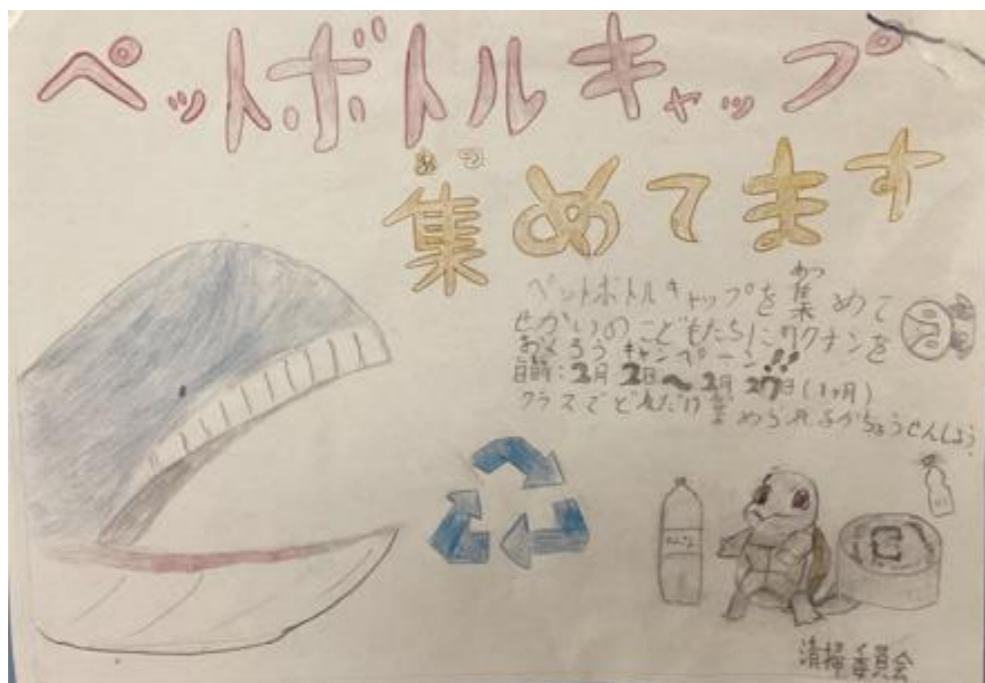
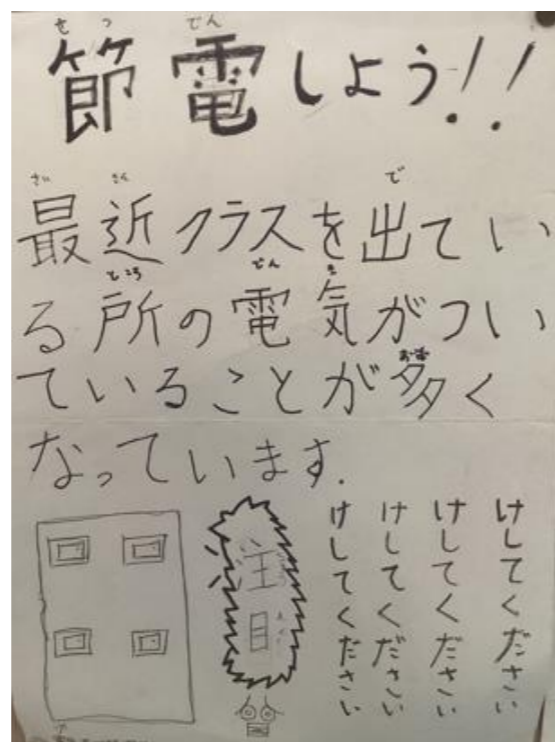


■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」					■今年度のグリーンカーテン実施状況 (朝顔、ゴーヤ、へちまなど) □実施した ■実施していない		
取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
省エネルギーの推進	日常の学校生活の中で、省エネルギー活動について学習し、実践できるようにする。	1	上下水道について学習し、水を大切にする心を養う。	4年各担任	4年生	1. 水資源への意識向上と実績：上下水道の学習を通じ、節水の重要性を深く理解しました。 2. 気候変動への対応と節電の実践：熱中症警戒アラートが多発する厳しい暑さの中、児童の安全確保と節電を両立させました。エアコンと扇風機を効率よく併用することで冷房効率を高め、快適な学習環境を維持しながら、消費電力の抑制に努めました。	【取組の評価】 □達成できた ■ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 環境学習やポスター制作を通じ、節水・節電が環境に直結するという意識が児童に浸透しました。日常生活における省エネへの理解が着実に深まっています。 【今後の課題】 猛暑時のエアコン利用は不可欠ですが、扇風機併用などの「効率的な活用」が鍵となります。健康を守りつつ、状況に応じた「賢い節電」を自律的に実践できる力の育成が課題です。 【次年度への引継ぎ事項】 今年度の学びを、実際の冷房利用などの「行動」へ繋げる活動を継続します。健康維持と環境配慮を両立させる、持続可能なエコアクションの習慣化を推進します。
		2	電気の性質や利用方法について学習し、エネルギーを大切にする心を養う。	6年各担任	6年生		
		3	教室の電気を天候に合わせて点灯・消灯する。	各担任	全校		
		4					
5R・廃棄物削減の推進	校地内の環境を整えらるとともに、リサイクル活動等を推進し、ごみの量を減らす。	1	校地内の清掃をし、ごみの量や誰が捨てているかを考え、自分たちの行動を振り返る。	各担任	全校	1. 校内清掃と実態把握 校地内の清掃を通じ、ごみの種類や排出状況を調査。自分たちの行動を客観的に振り返り、環境意識を高めました。 2. ごみ減量の実践 廃棄物学習を通じ、ごみを減らす具体的な方法を検討。生活の中でリデュース・リサイクルを実践する態度を養いました。 3. 海洋問題と資源循環 海洋ゴミ問題の実態とリサイクルを学習。地球規模の課題と自分たちの暮らしのつながりへの理解を深めました。 4. エコキャップ回収活動 回収箱を設置し全校で収集を推進。身近な活動が環境保全や社会貢献につながる意識を根付かせました。	【取組の評価】 □達成できた ■ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 学年に応じた廃材利用や清掃活動を通じ、ごみを資源と捉える意識と校内美化への主体性が高まりました。制作活動や実践を通じ、環境保全への理解が着実に深まっています。 【今後の課題】 エコキャップ回収を年間通じて活性化させるため、掲示や放送等の周知を工夫し、全校児童がより関心を持って参加できる仕組みづくりが求められます。 【次年度への引継ぎ事項】 ごみ削減や省エネの実践を継続し、学びを「行動」へ繋げます。健康維持と環境配慮を両立させたエコアクションの取り組みを引き継ぎます。
		2	ごみについて学習し、ごみを減らすための方法を考えるなど、実践していく態度を養う。	4年各担任	4年生		
		3	海洋ごみ問題の実態やリサイクル方法などの学習を行い、環境への意識を育む。	4年生各担任 5年各担任	4年 5年		
		4	エコキャップを集め、身近なことで環境や世界の人々のためになる活動をする。	各担任			
自然愛護・いのちの学習	植物の成長を学び、それを育てる喜びを味わうとともに、自然を大切にすることを育てる。	1	各学年等に応じた野菜や花を育てることによって、自然に親しみ、自然を愛する心を育てる。	各担任	全校	1. 学年別の栽培・観察活動：低学年はアサガオや夏野菜、高学年はジャガイモ等を栽培。鉢や畑での育成・観察を通じ、食物への愛着と自然を愛する心を育みました。(各担任) 2. 地域の自然環境を通じた学び：2年生を中心に「南湖院」を継続的に訪問。四季折々の動植物の観察を通じ、地域の豊かな自然を実感する貴重な機会となりました。(2年担任) 3. 校内環境の整備と共生：委員会や「花の会」と連携し、花壇や青空池の維持に取り組みました。	【取組の評価】 □達成できた ■ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 栽培や観察を通じ、生命の尊さと地域自然を大切にする意識が向上しました。外部連携による環境整備も、豊かな感性の育成に繋がっています。 【今後の課題】 長期休暇中の管理を含め、児童が年間を通じて主体的に動植物と関わり続けられる仕組みづくりが必要です。 【次年度への引継ぎ事項】 地域資源や「花の会」との連携を継続し、自然愛護の心を育む活動を継承します。観察体験を重視し、環境意識の定着を図ります。
		2	花壇や青空池の環境を整え、動植物の成長の喜びを味わうとともに、自然を大切にすることを育てる。	栽培・生き物環境委員会担当 花の会	栽培・生き物環境委員会 花の会		

(様式1) 学校エコ活動シート

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



エコキャップ回収活動・節電活動

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

山本 哲史

【今後の方向性について】

今年度は「省エネ」「5R」「自然愛護」の3本柱で着実な成果を上げました。今後は以下の3点を重点的に推進します。

- ①自律的な節電の実践：学習した知識を活かし、状況に応じた「賢い節電」を児童が自ら判断して行動できる力を養います。
- ②全校参加の仕組み作り：エコキャップ回収等の活動をさらに活性化させるため、掲示や放送による周知を工夫し、全校で取り組む意識を高めます。
- ③地域連携の継続と定着：「南湖院」や「花の会」との協力を維持し、身近な自然に親しむ体験を通じて環境愛護の心を育みます。

健康維持と環境配慮を両立させた、持続可能なエコアクションの習慣化を学校全体で目指してまいります。